

農事組合法人 ぴりかファーム

■ 地域農業をリードする中心的な存在



〈法人の概要〉

所在地：〒049-4331 今金町田代 329-6

代表者：代表理事 末藤(すえとう)春義

構成員：5名（構成農家5戸）

役員：5名 常時雇用者：3名

設立：平成11年2月 出資金：525万円

事業内容：畑作(転作含む)／インターネット販売、農作業受託、

土木など

水稲 47ha、馬鈴しょ 18ha、大豆 17ha、ビート 17ha、小麦 11ha、だいこん、にんじん、ブロッコリー各 7ha

経営面積：135ha

農作業受託面積：心土破砕 70ha

売上高：1億4,925万円(H21年) 交付金も含む

電話：0137-82-0188 FAX：0137-82-0158

URL：<http://user.host.jp>

E-mail：pirika@sepia.ocn.ne.jp

〈法人のあゆみ〉

- | | |
|-------|---|
| 平成10年 | 12月に法人化に向けた話し合いを開始 |
| 11年 | 2月農事組合法人ぴりかファームを設立(5戸の農家でスタート)
北海道の地域連携法人育成支援事業に採択 |
| 17年 | ホームページを作成 |
| 20年 | インターネット通信販売を開始 |

〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・今金町の田代地区では、これまで機械の共同利用を行ってきたが、利用時期により収量や品質などの格差が生じるなど問題を抱えていた。また、従来の個別経営では生産コストの低減も限界に近づいていた。さらには、地区の大きな課題として、農業者の高齢化や、後継者の不在などにより将来、地域農業を守っていく担い手不足にも不安を抱えていた。
- ・こうした地域の課題を解決できないかと、平成10年12月に「新しい農業経営に関する会議」を設立して、法人化に向けた話し合いを開始し検討を重ねていった。地域農業を守っていくためには、法人化しかないとの意見が短期間でまとめられ、翌年の11年2月に農事組合法人ぴりかファームを設立した。
- ・設立時は、てん菜機械利用組合の8戸のうち、当時ビートの作付けを行っていた5戸が参加。78haの経営面積で法人経営をスタートさせた。
- ・その後、地区の離農農家の農地を引き受けるなど、経営農地を増やしていき、現在では135haまで拡大しており、地域内の農地の約3割を集積するなど、地域農業の核となる法人として重要な存在となっている。
水稲を中心に馬鈴しょや大豆、ビート、小麦の畑作物をはじめ、だいこん、にんじん、ブロッコリーなどの野菜を取り入れている。また、地区の高齢農業者の労働力不足を支援する農作業受託にも取り組んでいる。
- ・農業生産ばかりではなく販売にも力を注いでおり、平成17年からホームページを作り、20年からインターネット通信販売を行う。また、日本一の男爵じゃがいもとして「今金男しゃく」が美味しく食べることができる料理レシピを掲載するなど、販路の拡大と消費者ニーズの喚起にも努めている。

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- 組合員が抱えている個別負債の早期償還に向けて収益を上げる必要から次のことに取り組んだ。
- ・組合員が持っている栽培技術を最大限に活かし、収量や品質の向上をめざした。
 - ・コスト低減のために最適者を選び機械の保守管理を徹底した。
 - ・労働効率を高めるために、組合員で良く話し合い、1週間、1月間の単位で計画を立てて、適期作業を実施した。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・作物ごとに、組合員がもつ最高の栽培技術レベルに合わせることができ収量・品質がアップした。
- ・最適者による機械の保守管理を徹底による、機械費用の削減が実現した。
- ・個別負債の計画的な早期償還が可能となった。
- ・販売を通じて、消費者のニーズの把握が可能となり、ニーズに対応した栽培に取り組むことができた。
- ・地域農業を守っていこうとする連帯意識が高まった。
- ・法人に農地が集約でき農地改良が容易となり、遊休農地も生産できる農地に変えることができた。
- ・法人化によって、規模拡大と複合化、直販に取り組むことができた。

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・みんなで十分な話し合いを行い、決まったことについては、お互いわだかまりを持たない。

〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・やる気のある人が話し合い、具体的な計画を数字で示していくことが大切です。

〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・何年にも渡り、暗渠や心土破碎などの土地改良を重ねて、減肥や減農薬に取り組み「安心・安全」な作物栽培を手掛けている。
- ・日本一のじゃがいも「今金男しゃく」、美味しいお米「おぼろづき、ななつぼし、ふっくりんこ」などをはじめ、だいこん、にんじん、ブロッコリー、アスパラなどを栽培している。
- ・地域内の農地や農作業の受け手、実習生の技術習得研修による担い手の育成、高齢者の雇用の場の提供といった公益的な機能を有し、地域の農業生産の持続的な発展と集落機能の維持に貢献する地域農業の核となる地域連携型法人として活動している。
- ・代表理事である末藤代表理事は、北海道農業法人協会副会長としても活躍。

〈経営目標と将来の展望〉

- ・農業生産を通じて地域の活性化と農業の振興を図るとともに、地域の担い手として農村を守っていく。
- ・協同組合精神を優先し組合員の生活を守っていく。
- ・お客様(消費者、委託農家など)本位で、ニーズに応える生産をし、地域や健康そして命を大事にする。
- ・若い意欲のある人材を雇用して、加工部門を加えて事業を拡大していきたい。
- ・安定した経営基盤の確立に努める。

〈視察の受入〉

受入は可能ですが、お断りする場合があります。詳細については要相談。
連絡先: 0137-82-0188 (担当:代表理事 末藤春義)